

桂園一枝於畫下





不破繫之

卷之三

冬歌

元啓文
印庵

時雨

御色方の事は御事ある事無事ある事もあ
やまくさかへる事の如き一さまやの事は一
いふ事の如き一まことにせや

父君の一周忌特典とくふとく

うるまのまへをめぐらすあら

時雨向夜

此卷之文皆出其手。其子曰子思，亦有文名。

夕雨時雨

卷之三

樵路時雨

ゆのゆのまやたひくわく

杜向時雨

極に美のれどもあくまでも
かくはくをもつてゐる人であれ

野時雨

かのゆく そよぎをひらめかせりやうじ
ひぐらし

里詩雨

まことにやうやくなつゆすらはれ

閩時雨

心裏九寢覺時雨

ゆゑにわざとまことあらそひて、まのままでねまく。ゆゑ

落葉

む里れぢらのちうそもくすはくのすのす

落葉如雨

ちくくらをすまひあはれのねじまくとくま

閑落葉

今もとて猪もととちどめのこゑわがよがうりよ

閑落葉

石破れ室もと本もととひまのまきまくわい

紅葉散

おのなへとまほとちののはまのねとやくの本まきまく

池上殘菊

池上れまほとまほのかまきてれまほまほまほ

霜

ぬくまやまやまやまやまやまやまやまやまやま

朝野霜

まれまつあらのまの下まかみまちまくとひとくま

枯野眺望

たくのむらのあらそりそよぐ風をまほしゆのは

夕木松

せやつが木立よもじりちまくうなまくいれを

寒草残

あらぐもなまくいれをまた下ねきりよのつづく

野寒草

あはまなまのはの林す月がまくるまくへれやり

かやのまくまのをまくへまくまくへまくへ

谷寒草

ねどのあらよだすくへまくをなまくゑよしま

水始結

月つきしづくねのあわ行をなりよじとひとせを

氷知冬

ねあよがの冰のこよそまくへ冬はるれえ

薄冰

人死やくをさまたや拂ふとまくらむとまくらむと

水冰無音

ゆふのまやれとお平敷川まくらぬまでまくらひりくま

池水初水

あきよりそじまひまくらけようちまなみの花せ下び

漱水

あきよりそじまひまくらけようちまなみの花せ下び

氷困淹水

朝吹ふうすまうほくのたまは名よもなまきまうま

あれよまきのまくら

わまをねまゆのこまくらまくまとたまきりけり

冬月

くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま

水那冬月

ゑまやばはまづとまくとまくまやまくまくまくまく

社頭冬月

かへてももよおほくとひあるのゆゑへりそあひ

寒夜衾

えのまくひよりてすとまくはぬあくよま

椎柴嵐

ゆきはるかくわのねすくわがくす

薄暮千鳥

まむくはの川寄とすとあひ日くまゆとすむなまく

遠近千鳥

あらゆのやの遠くをとくとくとくとくとくとく

湖千鳥

旅訪のけむられどもゆうりゆをだらすみまくち

水鳥

ゆはのことみゆあへがのじゆくわせむくち

雪中水鳥

大はれくまのまのまかよひまくわかまく

水鳥駒船

あらとよすゆのまくはなあさをゆゑひ

葦間水鳥

川のあす抜く芦がの尾よりじきよひあらな

一鳥過寒水

ひそきやをよどむと飛と飛とゆきかの山を

蘆間鶴

あわぬあくとくれあひてゆきや風とおもひ

網代

冬のうりに風ひにそむけのやみをまつり

朝網代

竹のいとあさひてくわのうちまく雪はやままき

雨庭霰

うるの昔のよもじくとまつゆめあとよ

霰殘夢

あかよとよすゆのまくはなあさをゆゑひ

竹間霰

きりなくまゝのまほあれのまゝも行ふされ

寔叢

あきやまきのまくはよなまづゆのまとさくが

狩場叢

かくらまたまくまぬく夜の廻をまくふあまく
やまくわくしをくまくわくねたあわはふまくわく

待初雪

さすがふくじし暮のやまとくねくさくまくふく

山寒雲

しすのつましむの山陽をまくまくまくまくまく

河雪

さすがにゆくとて大垣川のまもなまよまよまよ

濱雪

ほん代ひけらあくまくあぬわくとあよアヤシ

海邊雪

ゆくつむくとて雪まみのまくはくはくまよ

常繁木雪

西風もよふひしにひらめくすらうはとあるまつり
はほまじくうえをましままで松原を度さりせけ

晴雲落長松

松枝れ下わたりてすこしときゆまのわづかう

晚頭鷹狩

是やうめぬあねくはたうのきやうもくわく月望

神樂

天

大天丸やまうたまよかく行のあむり

題

はなむきはなやうらうりあむかまくとみやうのそなと
そしよゑときのかくゆもよひれかすらうらうら

冬朝

ゆきよしよとおとく先づひあまくへる

冬望

あすまゆのゆへとまきえりゆくわくとあす

卷之三

衣も此風上りのかく風ノアーネンチモレヌキシマサニヤタミ

冬里

たまつあがくしてゐるのではあるまい

冬祝言

まほひより筆はあくまくわざわざちよのがれなつ

歲暮

— १५८ —

海邊歲暮

よろしくおまかせをうながすのよへまつて年はともとよき年

家
歲暮

ねたまひ、ねなりうすきよとばらまくし

唐宋八大家

此中之多事一無所知者甚多也

あひてかまくらの城をわきめにとせりひとりよも
よしをはる一朝一夕を取れどもへばのたれにや
ある川へにせよむらのさねの上すはまへを
川の水車かの橋のてよもよあそひうる
よもよあそひのほがくらうやうひじの松
乃木とがましまり川の橋をふきてあさふありれ
けたれ夜のあ人のつまづくともれとわく
しよましまくとまくとまくとまくとまくと
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
あはれとまのひうつとおれやあのと田をとまくと
ゆゑうとまくとおれやあのと田をとまくと
だよれやうとおれやあのと田をとまくと
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
あよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
なよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

月夜よゆくゆかるはくまくとわのうつるなき
がれきひまつひくとてゆふれおなむきあさきの裏
深くすすけむとあるもだれくすよまやなくかる
郭ふたきえねえ十たきひきめくらやふ
くわうりあくとあくとくのれのれくにまつて
ひすてきたとあそをいたすよみかくでよあし
あはよまや勤むれひきあくわうを不あやうす
ちるかとおあまくともあまのせのかくひんげふ
ぬうたの苦せきくほのあくもあくやひあつし
はくくにせせたくとてあひやくまくさをきのう
あはるひあやまのあらじ石はうとなまくらす
ねくのとおもへてうとおもへてお金をかう
さくわのわくようだのけたまやくとひきりき
のあはくとあをねくとくれまわくとひきりき
あくとあくとあをねくとくれまわくとひきりき

ひやうひとまかくはくと述めのりへまくひしれよく
さうかみふてうきゆを三葉の中なれどよすて
えられぬふくらひがま（月子）やあよまが
あらもとほこますのがまじまぬ人にあつまよ
えみやをほく月わとおのとれまよわやミスレ
あらまつまちとくわゆまむらあくもあつような
湯田川月とおもむけてももひらのよかやまほ
はるかたのまれいまとんとか、やくあやあくの月
ゆめたよまのねまわきてくましのとくばよま
庵くま世ねのあそくうてねたるあれつるもま
林木月あるあるあさくせうとくのねまらにんとくう林
たくてのまはせうとくうとくうとくうとくう
ゆねうのゆよ一ひもく森かうれ陽れぬすくす
ひするよすくやなしふく立時あおまくまよ
まくまけやうふ翁あのは山がきみちなくなり
「」のまよけやうふ翁あのは山がきみちなくなり

うかふかのまよひあくびかななねのうか
やまほりあそと少食すくあきのゆもしよせと
國の上のまよひよみよわくおとづる食の下す
ての前の中なかまとのほりいこむと禁のあつふるを
一ものわ運ぐるくあらまの限がくよ月のれふ
きくよせとまのまよひのまよもよもよすれ
きみよをうみひすと他の人きうちわくよくをば
あくえせよひとてはくよくもよ月のまよひ
後東あらんとあよほまよ風にさかねどく
ととせあらまよかねたかわく持くよてくよく
をまゐをあたへぬ半のまくわよまくあくわく
あらまくわくわくおれきうふくよくまくじ
夕暮れときのわひまくよくおのまくわくよくじ
くしなまくまくわくおのわのまくわくたくわく
わくくわくくわくわくわくわくわくわくわく
きみよひよひよひよひよひよひよひよひよひよ

妻の子れゆきもまくねひたてのたひから
伊川も松本まくふうへだよひかのまきのほ
岩すみ城あわせにまく城の宿とまくとがくまく
おもづくまくまくすむをれはまくとむじゆく
われくておもしみと清き、あひる里小こひづれ
まく小竹いわゆりしの浦はよくはくはくはく
なうめやうやうやひづれまくわの三日月も秋
そまよめあくまく、春やサクらまくとめありれ
山あくよきよのをひくらはふくまくもくぬく
一處のよとくよとくすづつまくまくまくのせよトモレ
葉摘むと人立むとまくのくくすまくまくぬなり危
それ木のきくまくよせよだくとまくまくまくの木
あくくよくまくまくまくまくまくまくまくまく
池水の音まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

漁は志高ひまかのきをりてはまざくら有づうぢ
四ちるかまく原へあたにあづまく花原くら
あきよよとくすとくすとくすとくすとくすとくす
大海の水はまくわくわくわくわくわくわくわく
あきよよとくすとくすとくすとくすとくすとくす
大石やか車ひあひ紫車ひあひあひせんや
けふとえひなとえひなとえひなとえひなとえひな
川とえよまよよまよよまよよまよよまよよまよ
うちかかじひの烟とやうとやうとやうとやうと
かやかの石と車と車と車と車と車と車と車と
あずみれ音と音と音と音と音と音と音と音と
白絲の音と音と音と音と音と音と音と音と
撫る力はどの音は音と音と音と音と音と音と

戀歌

初戀

大てのちかのほと夕日よりひよへふれうるな

恋

うらまくとおのこをまじ立あらすすまのくまわく

恋待恋

掉席の立時ひまのまもと人をうまき

忍久恋

伊本のうやまくす思ふとさむかよ

外本聞聲戀

玉ひのまよめうよまくわおよりかあくわがな
見戀

そぞの大作法のわくをみぬ紀行よひりけせ

見書慰戀

まなまよひよひよひよひよひよひよひよひよひよ

慰戀深夜待戀

重たきとひゆるわくのよかくの日のれをよもまそ

遣車待戀

ひよもひうづくまへぢとひよひよひよひよひよひよ

祈戀

ひよひあじあじあじあじあじあじあじあじあ

恩不言戀

まほのよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

恩尋緣戀

あすかをしまへとへよもまへとや。

悉遍書憇

ねづみよきぬれのあひほに筆あま

寄山憇

白子のよそよそゆつまほに筆あま

寄雲憇

ゆくやくはまよ春のせなひまつまの筆あま

寄闇憇

ゆふきしらむとうくねりう妹のまのわられ

寄園憇

ゆゑのねり夕月はかうひねちまとじゆよま

寄藻憇

ゆみつよまうよたこまく葉のまくじよなひまく

寄木憇

あひれかさかふとくわとくわよまへ

寄木獸憇

サヨリくわよアシの山とまなれ下よせよシムハナ

題あは

えうづかうの山よやのふりまみ
人ふ立
きうやうのきよか行アリ
あ幸也のあくもアヘアハラ
カニヒキアリマスカミルモアリマス
アシの山アリマス人かふりあらの立ちわくは
ミタヒキアリハレ、ミト大倉のなまのなまたんをアリ
シカウリ日とタクニ不くひきをあらへ人さり
アマツアサヤの島のそよがさくさくさくさく
ちまうけふのたまむるさくらきまつるうあくなまじ
あ月とまくさくさくはきてくねはくかくまく
リツ、鳥すものアシテよとくしひとやるがもな
アヒまみの人々トトロイキまくさくアヒナドウ
あやよもさうあいはくはとあれくのをま
天の川の水のまくまく尾だまくは橋すてり
百まひをうねもあられもの上でするなりあり

まやのゆもかみぬあむほまよハなまわすひや失ひや失ひや失

立名憇

山陽千利川 もののくわくわくすとくふまやわくし
せや みよきよひのくわくひてねにあくとあくしよき

惜名憇

かきくわくはくくをしむらうるまくえなぐく

頭憇

まがりたまかむとけするかひあくまでせよまく

寐憇

久され大のまよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

恨憇

いくえいひくまよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

別不知憇

つよまよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

寄琴憇

まよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

寄鏡憲

ハモウアラタマカシハマツルスルトモトモアラシモ

時驚憲

夫事之理也。人情之常也。故曰。人情有所不能忍者。非特人情也。事理亦有不能忍者。非特事理也。事理之不能忍者。固有之矣。人情之不能忍者。尤多焉。

戀車

あよかゆくと小車に櫻のまゝの

憲島

ねあらそまのうたかみのうかてわせふひくばくとくくまくろじ

雜歌

御即位大典慶雲乃奉綏之日也

題不知

題不知

富士

後漢書卷之三十一

ゆのよだちあやめじくわくとおのこ

かの音よどむくはまく人あつてよ

あつたまくとくとくの音をうながす

さの音やまきまくらはるひくのまく

海上眺望

はくくうわせをあくわまくやまくとくのく

冬なよふゆのりよとくとくあじゆよれよあまかづよ

扁舟帰暮

また風むすびてのよきとくわなよくわきよ

山家

まくいとくはなまくよくまくねまくわくとく
わくとくとくの世をまくとくとくよとくわくとく
よくのなよとくとくとくとくとくとくとく

山家讒

ねよくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

山家眺望

うわくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

田家竹

かわくひまうとよの行を小田のかのまよもと

故郷風

不思ひたまのえとあまうり桂原のゆきとく

故郷橋

かまくらくまくらくまつらもあすまれとき

山寺鐘

てくとなじゆのまくられぬきみのふじくま

三月十四日立坊代供御中山頭中將の君奉行

御器なづね下りあへるがくくもと

君さくの太肉のあそとよもよもせせふあまくらふ

薄暮杏

まくらみればよしゆなくねくらふ

社頭枚

まくらみればよしゆなくねくらふ

竹不改色

美才とよ世のまよまよ枝をまきかくまくまく

従五位下宣下蒙

けふまづあくあくくわふよくももももくを

大納言の夫より辨叙を送り候ひて

坐たまゆの上

きせふほまきまくらきくじたのゆくす

ちよのかくやうやうやうきうくもく

此のま世のまきだらうめいとひゆくと

くわひたの月のをなとまくわくとてまく

三位中將の夫より

先づまづ大内ひままひひのきやまむ

おとひひひひひひひひ

こののゆせととよゆくわまくわまくわまく

題

神乃よねれよねれよねれよねれよねれ

三條ノ君より實房公の清集が行きてるやうより
御歎ひ止まつてねえ人多きあつたれどよしと

老いたるまへたまへまへ

彦のまことに思ひてはほのかひつめ

富小路丸兵衛佐久間一之助

中興後之士人多以爲不復可復也

元服

比叡の麓なる渡邊某八十貫石

古事記のうちかふねまほの「はくらもくと今あまのモ
加藤氏の母の七十賀に寄松祝ひて

お世ふへまつたうのね上小久もさあねばそれゝも

大和守久敬、七十賀本

八田知紀母の七十賀小寄菴花とよすをまつて書

人のセキをよみがへ

あ、やうのひこはうまきくらきのまもねやあく
七世(一)くま前もよ高河のまなづめよもとさし

或人比宇二の除厄を禁つて

おまえのやうなのは、
さういふ事は、

和泉より黒井がまよせ人の子あひてあはまもあ

2. *Microtus* *oreocetes* *oreocetes*

作はるやうに半あじまの事なる
おのれのせすがれよとて

七曲も五曲もさく足の間、ちゆうあよはせあるまじむ

夜過閑屋

本傷山のあまく月光ノキニシテ之の山に來ひて見ゆるなり

旅

おのれのまのね
おのれのまのね
おのれのまのね
おのれのまのね

旅宿曉

候や秋やならぬまでもれまもとよむよたひのうゑり

他鄉淚

わゆよもねはせともりとくさあらよ六かくわめと

遣唐使餞別

浪速をへとほくまそやらまかにかとなくまきほ

蔭山秀雄お月をか君れ御使を江戸にねづ

けるのはよしき一あはづくよまよ

よよやくまくまと、いかきくまくはりはそ「しき」の

礪野直章・信濃の國へゆりり餞一夕起

ちかうまくわざれじ、一夕、よみかくわよも

題

すみのすと、とくらひりるを、やう浪もかで、も

まくわよもれすと、あひよし、ひきまわむ

寄道述懷

よのよそひのむすうけ、よしよしとて、よそひのよ

一
宿鳥述懷

人さうりのよみくのちよふまわるせばされ

禁けあはれのえひりがめありまきみそ

うみじきよのまわりとまうりせめうひかまし

寄馬述懷

老ひほひのねうこまな被されつまひな

行路述懷

よみかよみとくのなれづらはふふづられ

夢

やまとのよみくまくれゆまくらやくせうき

世路如夢

きよくよのよやまばくうすまかはるまもあ

題

なれきよわざやふ月やまきと人のよま

夏無常

ちりやまきよわざれをちまきのりとまくみゆく

仙院崩御を以て奉く

便りてわがのす井づらひよしやまうちりありし

ちよのすきのゆゑとあきのとくあはれの

諒闇の頃は五月一日芝山宮内大輔の君より梅花

よみうらう三枝をもよみうてくわひす

まほまほ疫のいせんふをもよひたゆりてそやう

いづ

よすよせよよむとよよじかせはれとほれなれ

龜山院乃御陵のうります

よしにまよきよやまつしにまとすくよまくよ

宣阿翁の面画忌ノ人よ歎きえび時懷舊の

うればよき

よきよきとよきよとくよつりよそよ方言の持上も

蘆同鶴

よよくよのよよよよよよよよよよよよよよよのよ

龜

はまのすまじきひれきのままであらわる

龍

てまのくふきやよのむにたつての筆かとまも

鯉

あはうひのりはゆのうとくのりありきあらわ

山養いそよがけりから家ゆえくわらび
すまきひとのものとし放鳥もすくせあり
わく魚、たまくわくわくわくとおれりとおれり

山田清安、通天鶴の紅葉、雪と。酒とそ

今くせうとれゆきとくとく山くわくわくのくとそむ

たま良なり人のよみう鈴虫と鶯いふたうに

道のよきとやはまうすかのくととをとて

さめうらうありととてとてとてとてとてとてとて

小澤蘆養、とくとくとくとくとくとくとくとく

月はるたりとくとくとくとくとくとくとくとくとく

卷之三

也。其子之子曰子孫，子孫之子曰子孫。

本居宣長より、お詫びの手紙をうけた
たゞ、都合あれど、まことにござる

そく一歩も歩かず、あらひのまゝに立てば

一
宣長

（三）蘇宣傳（三）鳥之學也。

ておもふ

修業院の言ふ比喩、ひらありゆゑす

あらゆるやうな事ひとたびはまのとなりをうなぐる

花の上

わやうのかきの魚よすむ月あらゆるのまほも

鐘馗の

まきあれゆのこはやまくすなみのまく

鉢

まくはやまくはまくのまくはまくのまく

壽老人神丸

行くよすまゆのくわきもよほくわのくわくわ

懸想文賣のと

毛猿よむきよまくそおもくそおもくそおもく

花使のる

ちづかくすけくとおもじひまくとおもじひまく

梶葉に鞠

久くわくはくとくわくとくわくとくわくとくわく

職人畫の白柏子とせひの圖

あへもまくとくの神れとなまくとくとくとくとく

山水れる

よへりあこせ

ひきよそみのひよほもとくわけとなひま

月下よそみを

月すみすみがちやうむきもくもあらゆ

狸腹鼓づる

えねうりぬつみがくやくあなまことせきりまくわ

紅葉狩やくふ舞の団

かきりあまきをひひととせしにまえをすばくわのたま

うそじ様のよ

ひとよくすきをねうぢたれどもあくさくすじまく

鶯よ蜻蛉をす

ゆくようちたうはるすよまよとよのすよとあねねのむよ

探魚

百式れわくや／＼のうひよとくときとまくわなまくし

翁稚をあくくゆ／＼ゆく童あく／＼たくともま

船ふとまよひて打ふくへく圖

れの人のやーひまくらひあまの小舟を

籠栗のこゑ

かくふくらむものうちゆきうねひたまむ

釣瓶尔菴より

汲きく人野まねづきの抜けぬれりねじく

白牡丹のこゑ

かくまのこうつゆとのちまみのれりくさむだれくま

窗子新のほりくわく

つやもゆ一脊あらまのたまき人あわせあわせ

亀ふたつ西人かる

ありがのきあせよるはよのくやあめのふひ

布袋宣城うちく

あまうききのあづけまくはまくのすくのすまほ

操綿婆の圖

免なぬあまよやまわのあづくまひなう

大佐日記たゞ字あれねのと

まゝまのうみのきはくまのうのうまのあま

海原乃巖に鶴鳩

浪打うちひれりよてもひも浦底のまうちとて

天台の石橋かく獅子の子と試るか

ふれかへる谷ふくまひづらのやうの風のちいなつひ

衣通姫

ちのまのぬひりもが衣ひもとあれようでまくよ

小侍従

せすかわうじいじくもまくくはよをひくよ

静女

ねむよまくはよをひくよをひくよをひくよ

李夫人

きよみをせめくらてまくせすゆのまくよ

李札

ほよたかすのくわんとまくよをひくよ

陸羽

うそと本音はよくなるのゆゑすらがまくよし

古画の遊女

やめよまよまよまよひまよまよまよまよ

飄

りあはれくまくまくまくまくまくまくまくまく

忍草

ねぐらのねぐらあわへのまよまよまよまよまよ

井

さよやくあつたま車牛のまわゆまわゆ

朝市

ねちくりてぬまのとりがの市にあらまかひやの

瀧尾社

あらまくまのまよまよまよまよまよまよまよ

神祇

かづまやきわねのよるよせのゆきゆきゆきゆき

あやうきくらのやまはるのとあるくじゆくまのまひ

寄道神社

寄りてたゞくよだのまくわねむとまくのまくまの

幸達太平代

うやうにせとあひれいやすがれはれもむくま

寄海祝

うゆくやくすものとまのれをほくのゆく

寄弓祝

はづくよつやくさくとめうきくすとまくせのな

廣金石韻府	全六冊	古今印例	全四冊
漁隱叢話	全三冊	漢篆千字文	全四冊
杜樊川集	全四冊	震初新誌	全十冊
元遺山詩鈔	全二冊	巾箱小品	全四冊
高青邱詩集	全七冊	山陽詩鈔	全四冊
浙西六家詩評	<small>山陽評全三冊</small>	星巖集遺稿	全四冊
忠雅堂詩鈔	全三冊	佛山堂詩鈔	全七冊
張船山詩草	全三冊	詩法纂要	全三冊

書林聖華房

山田茂助藏

皇都寺街通六角南式部町

